



地震への備え

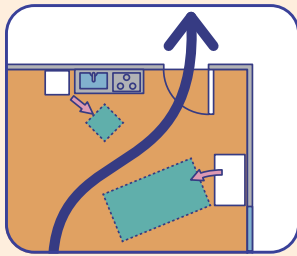
事前の対策

もしもの備え

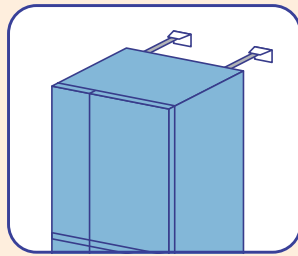
パナソニックの電池防災グッズ



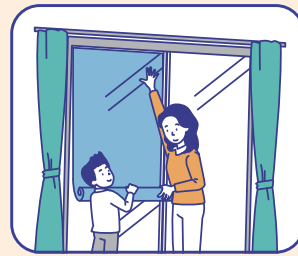
室内の備え



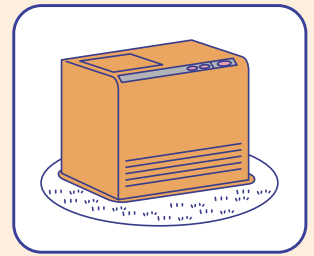
家具が転倒した時も
ドアなどを
ふさがない配置にし、
避難経路を確保する



つっぱり棒や
固定具などで
家具・家電の
転倒防止をする



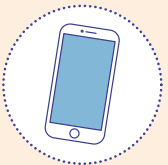
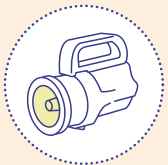
窓ガラスや食器棚に
飛散防止フィルムを貼る



暖房器具が
転倒・移動しないように
耐震マットなどを引く

就寝時の備え

- 転倒の可能性がある家具の近くで寝るのはできるだけ避ける
- 懐中電灯などあかりを枕元に、スマホも手の届くところで充電
- 足元のケガを防ぐためのスリッパを近くに

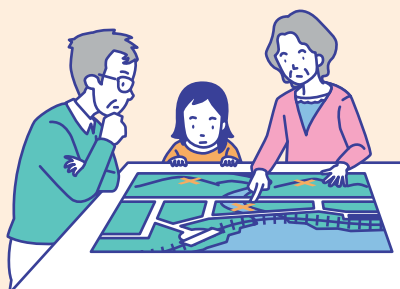


家族と事前に決めておくこと

災害時、家族全員が一緒にいるとは限りません。避難について家族で話し合っておくことが大切です。

避難先と避難ルート

- ▶ 地域で定められている避難場所
避難先は2か所以上決めて家族と共有しておく
- ▶ 自宅から避難場所へのルート
地震の際は、広い道路に早く出るルートを選ぶ
(台風・豪雨時は災害ハザードエリアを避けたルート)



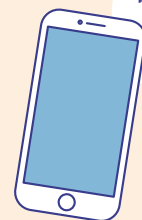
集合場所

- ▶ 家族と落ち合う場所
すぐに会えるようにピンポイントで決めておく



安否確認の方法

- ▶ メールやSNS
何で連絡を取り合うか具体的に決めておく。
- ▶ 災害用伝言サービス
 - ・災害用伝言ダイヤル(171)
 - ・災害用伝言板(携帯会社各社)
 - ・災害用伝言板web171



避難時、
電池式モバイル
バッテリーを
忘れずに!



地震への備え

もしもの行動

もしもの備え

パナソニックの電池防災グッズ

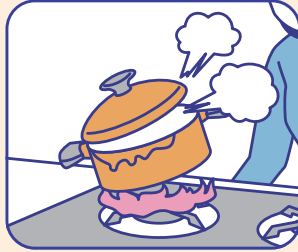


発災直後にとるべき行動



1. 揺れが収まるまで様子を見る

あわてて外に出ないこと。テーブルの下などで身の安全を確保する。



2. 火の元の確認、初期消火

あわてず落ち着いて、揺れが収まってから火の始末をする。



3. 出口や避難経路を確保する

いつでも避難できるように玄関のドアや部屋の窓を開けて様子を見る。



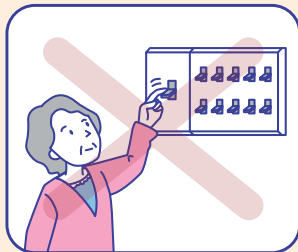
4. 屋外では壁や塀から離れる

壁の看板などの落下、塀が崩れてくる恐れがあるため近寄らず道の真ん中を歩く。

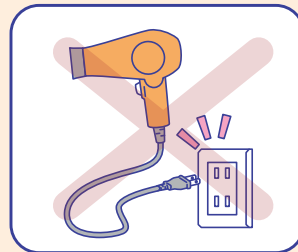
発災時のNG行動



火をつけない



ブレーカーをあげて通電させない



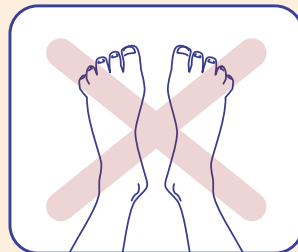
コンセントに触らない



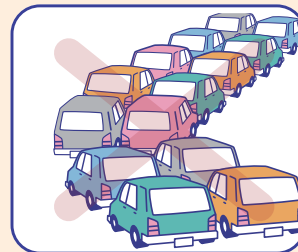
エレベーターを使わない



不要不急の電話使用は避ける



部屋を裸足で歩かない



避難に車は使わない